

新年号

酪農

とちぎ



明けまして
おめでと
うござい
ます

皆様には、家族おそろいで新春を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。今年、那須高原CS・支所が完成いたします。また、全日本ホルスタイン共進会が本県壬生町で開催されます。

本年が飛躍の年となるよう祈念申し上げます。

元旦



新年のあいさつ

代表理事組合長 前田 忠利



平成十七年の輝かしい新春を皆様と共に迎える事が出来ましたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年は日本列島に台風が数多く上陸したり、新潟中越大地震が発生するなど各地域に甚大なる災害を与え、我々酪農の同志も大きな被害を蒙りました。心からお見舞い申し上げ、皆様からの心のこもったお見舞金を差し上げました。十六年上半年期の生乳生産は北海道が九九・九%と前年並み、都府県は関東、九州が〇・一〇・二%増加と堅調に推移するも、他の地域は猛暑の影響等で一〇五%程度減

少し前年割れの九九・四%となっています。生乳需要の動向については年度当初から飲用等向け生乳需要は伸び悩み、七月以降冷夏であった前年同期の反動と猛暑の影響で大きな伸びが期待されたものの、引き続き低迷し学乳開始時期の九月も逼迫感はなく上期トータルでは九八・七%と前年割れとなりました。下期に入っても更に下振れの状況が続いています。豆乳や機能性飲料等の影響、乳業者、量販店の販促活動の鈍化や、加工乳成分調整牛乳や乳飲料などとの競合と様々な要因が考えられます。この様なことで脱粉の在庫は減少せず期末には九万六千にもなる見込みです。加えてバター在庫も四万と増加しています。この様な状況に対し日本酪農政治連盟で協議の上、消費拡大運動を進める事と決め、中酪、Jミルク、並びにブロック指定団体に要請を行い

ました。関東地区酪政連協議会としてはkg当り五〇銭程度の抛出金を集め消費拡大取組要請を関東生乳販連に行いました。金額提示は関東が初めてであり、これが引金となつて全国一体となつての運動に繋がる事を期待します。この様な状況下にあつて十七年の計画生産は十六年より更に減産となる方向で検討されています。生産意欲や規模拡大の停滞を招かない様な対応も考えています。関東では昨年決めた様に自然体生産で万一才一バーした時は全体で対応する考えであります。

W T O 農業交渉については「枠組み」で合意しましたが、これは具体的なルールを決める前提についての合意であり対立する重要部分では先送りや今後の交渉となります。市場アクセス（関税削減などによる貿易機会拡大を議論）、国内支持（貿易を歪める国内補助金等の削減を議論）、輸出競争（貿易を歪める輸出補助金の撤廃等を議論）の三分野の交渉は本年夏以降が山場となります。全国組織一体となつて運動、要請等を行い安心して酪農経営が続けられる様取組

みをして参りたいと存じます。

十四年に生乳需給が逼迫し五〇〇八〇銭乳価が値上げになり、十五年も同様な状況が続けば大幅値上げを考えましたが、一転して冷夏となり脱粉在庫増加の引金となり今に続いており、生乳需給や価格値直しの難しさを表しています。食生活の中に3 A Day（牛乳・乳製品を一日三回又は三品摂取）の定着を根気よく進めて行く必要があると存じます。販売価格上昇による取得増加を求める事も大切であります。組織経費の削減を図り組合員により多くの支払いが出来る経営を行う事も必要との考えのもと関東生乳販連では中長期計画の立案中であり、集送乳合理化、CSの統廃合による経費削減、乳質統一、プール乳価を進め、指定団体として、完全一元集荷多元販売機能を発揮、ブロック間の協調関係を図り広域生乳流通合理化を進め有利販売体制の構築をしたいと考えています。直ちに決められるもの、段階を踏まなければならぬもの、時間が必要なもの等種々あると思ひます。個別に利害が一致しない事があつ



ても全体の利益が上回るものであれば良しとしたいものであります。那須高原CS並びに支所建設につきましては昨年九月二十九日に起工式を行い、六月には完成の予定であります。開発申請手続き等を始め設計、施工管理料を含め総

工費六億六千五百五十八千円であります。約三億円の補助金を受けられますのでそれだけ圧縮できます。機能的で良いものをより安価で組合員の負担を出来る限り少なくする方向で取組んで参りました。県南支所の建設につきまして

は本年には真岡工業団地造成が完了し、予定地を求める事が出来ると思えます。その後新築に向け進め県南の合理化を図ると共に遊休資産の活用並びに処分等も検討して参りたいと存じます。十六年度も第4四半期を残すの

みとなりました。諸事業の計画達成に向けて役職員一体となつて努力して参りたいと存じます。関係機関の皆様のご指導を戴くと共に組合員の皆様の尚一層のご支援ご協力をお願い申し上げ新年の挨拶といたします。

年頭のあいさつ

栃木県知事 福田 富一



新たな「とちぎ」づくりに全力を傾注する決意であります。

我が国は、今、社会経済システムの大きな転換期にあり、少子高齢化や地球規模での環境問題など、克服しなければならぬ多くの課題に直面しております。また、国と地方のあり方も大きく変化しようとしており、自主・自立の地域づくり」という考え方のもと、各種の改革が進められております。

このような中で、自らの創意工夫で個性を発揮し、新たな「とちぎ」づくりに参画する「県民と

協働する県政」を構築するとともに、地域づくりの主役となる市町村と緊密に連携していく「市町村とともに歩む県政」を推進することと、対話と協調、改革を基本としたスピード感のある「元気で活力あるとちぎ」を実現することが、知事としての私の使命であると確信しております。

このため、現在策定を進めております次期総合計画においても、このような考え方に立つて「とちぎ」のビジョンを描き、各種の施策を積極的に盛り込んで参りたいと考えております。

酪農においては、環境への配慮と安全・安心な牛乳の供給を基本とし、新しい技術・視点を積極的に取り入れ、ふるさと栃木の恵まれた農業資源を有効に活用した「元気で活力ある酪農」を、皆様

とともに展開して参りたいと考えております。

また、本年十一月には「第十二回全日本ホルスタイン共進会」及び「第四回全日本ジャージー共進会」が、本県壬生町で開催されます。県といたしましては、本共進会を消費者への食と農の理解促進を図るための絶好の機会と捉え、様々なイベントを実施することで、本県酪農業の一層の発展を図って参りたいと考えておりますので、酪農家の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、平成十七年が酪農とちぎ農業協同組合の皆様にとつて健やかで幸多き年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

酪農とちぎ農業協同組合の皆様、あけましておめでとうございます。私は、昨年の知事選挙によりまして、これからの栃木県政を預かる重責を担うこととなりました。ふるさと「とちぎ」に対する県民の皆様



新年のあいさつ

青年部本部部长 植木 茂



明けましておめでとございます。平成十七年の初春を迎えまして、皆様に新年のお慶びを申し上げます。さて、青年部活動並びに各種事業に対して多くの部員の理解と、ご協力いただき誠にありがとうございます。また、組合役員及び組合員の皆様におかれまして、青年部に対して温かいご支援を承りました事に、厚くお礼申し上げますとともに、これからも、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

さて、長期的な景気低迷に直面している日本経済は、多少の光が見えてきたものの、酪農業にはまだその光すら見えておらず、消費低迷による乳製品の低価格など、所得も伸び悩む状況にあります。

さらに『食』の安全、安心が強く求められるようになりました生乳生産者と消費者が、互いに顔が見える取引に移行していく中で、酪農のあり方、環境にやさしい酪農を目指していかなければと、考えております。

将来の酪農業にとって、青年部として果たすべき使命は重要であり酪農業を基礎とした豊かな地域づくりを進める先導的実践集団として青年部の力を結集し、より一層の組織力と活動内容の充実を図り酪農の強力な推進力をもつ青年部の活動を実現していきたいと思っております。

また今年度は、酪農業界最大のイベントである第十二回全日本ホルスタイン共進会が栃木県において開催されます。これは、一生に一度の大きな大会になるかもしれない。共進会に出場を目指し頑張りたいと思っております。また、出場されない方もいろいろな参加の仕方があると思います。例えば出品者のお手伝いや、県酪農青年女性会議の企画する祭事に参加するのもひとつではないかと思っております。せっかくのビッグイベントがあるのですから、大いに楽しむべく、全日本ホルスタイン共進会を

盛り上げようではありませんか。皆様方の青年部へのお支え、ご支援、ご協力をお願いしまして、新年のあいさつといたします。

女性会本部部长 斉藤典子



新年明けましておめでとございます。皆様にはお健やかに新年を迎えの事と存じます。

女性会も、組合長を始め皆様方の温かいご支援とご指導の下、発足から三年が経過致しました。女性会の礎を築かれました、前役員の皆様の後を受け、新役員による執行体制となりました。会員の皆様方のご理解とご協力により、女性会活動を円滑に進め、有意義な活動が出来ますことを、嬉しく思っております。

会員の皆様を一堂に会して、昨年十二月に東京農業大学教授の小泉武夫先生をお迎えして、全体研修会を開催致しました。食の専門

家である小泉先生の講演は、大変勉強になりました。皆様からよいお話を聞く事ができよかったです声をかけて頂きました。

女性会として、昨年度と今年度の統一テーマとして、環境美化に努める、「家族経営協定締結に向け努力する」ことを掲げています。男女共同参画社会の実現は簡単な事ではないと思っております。まず、女性会自身が外に出て、講演会や勉強会に積極的に参加し、さまざまな情報を吸収することが大切だと思います。勉強会に参加することも自分の知識が増え、経営に対しても自分の意見をはっきりと言うことができるからです。まず最初の一步を踏み出してみよう。

今年度は、第十二回全日本ホルスタイン共進会並びに第四回全日本ジャージー共進会が開催されます。昨年のプレ大会は、予想を大幅に超える人出で盛況のうちに終えることができました。今年度の大会の成功に向け、皆様のご協力をお願い致します。

昨年は、地震や台風等の災害の多い年ではございました。本年も皆様の努力が報われるよい年となりますよう祈りつつございさつと致します。



東西南北

那須高原支所

各地域酪農組合全体研修会

塩原・西那須野地域酪農組合

十二月二十三日、西那須野町いとううなぎ家にて、三十九名が参加し研修会を行いました。相馬副組合長が組合業務報告、酪農情勢を述べた後、懇親会となりました。

黒磯地域酪農組合

十一月二十五日、黒磯市のクリスタルにて、参加者七十六名を得て研修会を行いました。那須農業振興事務所渡辺主査をお招きし、家畜排泄物の違反行為者に対する法令に基づく指導について説明を受けました。その後、意見交換会、懇親会を行いました。

那須地域酪農組合

十二月十三日、那須町の寿司義にて研修会を行いました。参加者五十八名、黒磯地域酪農組合と同

様に渡辺主査をお招きし、説明を受けました。昼食をはさみ、午後より前田組合長から酪農情勢についてお話頂き、研修を行いました。

大田原地域酪農組合

二月九日に新年全体研修会を行う予定です。

宇都宮支所

支所管内三地域酪農組合合同研修会及び交流会

十二月十六日、十七日、馬頭温泉で総勢四十一名の参加を得て、一泊での合同研修会を開催しました。

以前からこのような広範囲で時



間も気にせず交流を深められないのかとの要望があったのですが、諸事情によりなかなか実現出来ず、今回初めて

実現出来ました。

研修会は、菊池副組合長から、最新の酪農情勢や組合状況について報告を頂き、その後各々の経営の悩みや将来について語り合い、充実した一夜を過ごすことが出来ました。

栃木県南支所

河内南部・下都賀地域酪農組合研修会

去る十二月八日、組合長大阿久要氏はじめ二十一名で搾乳ユニット自動搬送装置の視察研修会を塩原町星牧場に行いました。河内南部・下都賀地域は繋ぎ牛舎が多いので注目度が高いといえます。自動搬送装置を稼動し操作方法の説明を受けると、搾乳時間の短縮と労働が軽減が見込まれ、繋ぎ飼いの農家でも規模拡大が可能となり、また、高齢でも酪農を続けられるとのことでした。

参加者は自分達の立地条件に合った装置で、今後導入することも考え関心を寄せていました。続いて公社事業で規模拡大をし



た、長島牧場を視察し、一〇〇頭入りのフリーストール方式の牛舎・ミルクングパーラーを視察して、スケールの大きさに参加者からため息が漏れていました。

その後塩原で懇親会を兼ねて情報の交換を行い有意義な研修会を行いました。

支所活動推進協議会

「環境美化」を実施

今年度で三年目になる環境美化事業を十一月十八、十九日に青年部の協力を得て花の苗配布を致しました。

尚、河内南部・下都賀地域酪農組合では支部役員の協力を得て、牛舎周辺環境美化の調査を十二月十五日、三日間実施し、環境美化に努められるよう巡回しました。



部課だより

生乳販売部

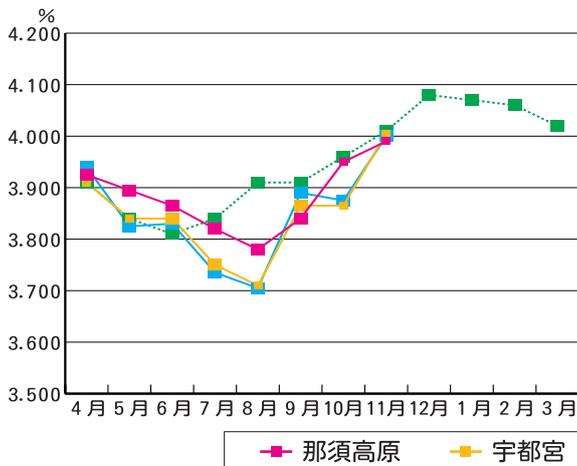
十一月に入っても例年のような冷え込みもないせいか、組合の生乳生産は九九・八%とほぼ前年並みの堅調な生産となっております。支所別にみると、那須高原支所においては九九・三%に留まりましたが、宇都宮支所においては一〇〇・三%、県南支所においても一〇〇・八%と堅調な生産となっております。

全国の生乳生産動向については、北海道が九七・四%、都府県においても九七・六%、全国で九七・五%と減少傾向にあります。特に主産地である北海道については夏場以降二%程度前年水準を下回っております。

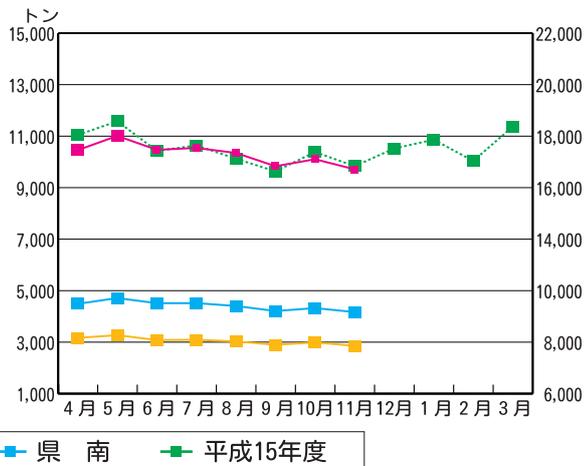
関東においては九八・五%と前

月並みの生産となり、減少傾向が続いております。

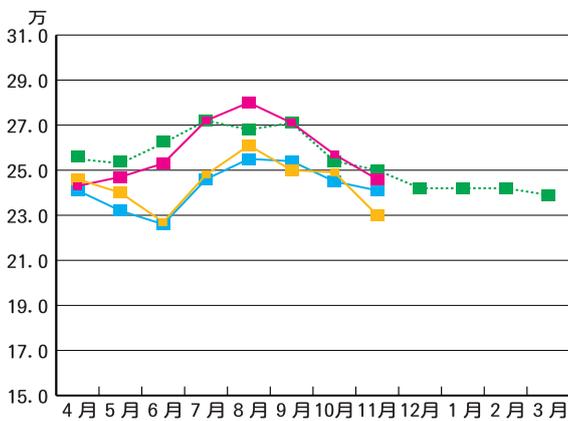
◆ 脂肪率の推移



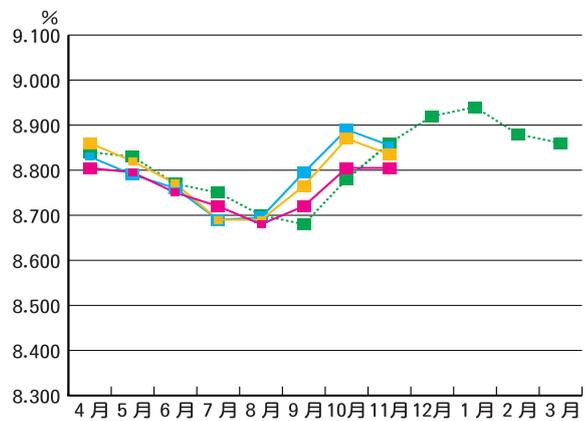
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



生乳需要の動向においては、飲用牛乳向けは相変わらず低迷(三

・六%減)しているものの、醗酵乳向けについては五・六%増と前月に引き続き回復傾向を示しています。

特定乳製品向けについては、飲用向けが減少したものの、生乳生産量も前年を下回ったことにより四%減と大幅な減少となりました。

乳質成績は、十一月に入り脂肪率が前年並みの成績(四%)に回復したものの、無脂固形分率は前年を〇・〇四%下回りました。細胞数については前年並み(24・3万)の好成績となりました。

十一月迄の乳量及び乳質成績は上記のとおりです。

酪農部

酪農とちぎ女性会全体研修会

十二月八日、ホテル東日本宇都宮に於いて、会員他約百五十名の参加を得て、酪農とちぎ女性会全





体研修会が開催されました。東京農業大学教授、小泉武夫氏を講師に迎え、「老化の制御と食生活」と題して講演が行なわれました。小泉先生は、「昔から『医食同源』と言われるように、食と健康は密接な関係にあります。現代の食の乱れは、身体を蝕み、情緒不安定を引き起こしています。特にミネラル不足が最大の要因ですが、意識的に摂取することで、心身の健康を保つことが出来ます。また、

ミネラル豊富な堆肥を入れて良い土を作ると、栄養面で優れている上に美味しい作物が育ち、それを食べていると、自然と健康になります。余分な堆肥を山に還せば、山から下の田畑、海まで豊かになります。』など、分かり易く面白い説明を加えながら、熱気溢れる講演を行いました。大変楽しく、学ぶことの多い研修会でした。

配合飼料価格安定基金 加入のご案内

原料の大半を輸入に依存している配合飼料は、飼料穀物の国際相場や外国為替の影響により価格が大きく変動いたします。平成十六年度も四月（全銘柄平均三、〇〇〇円/ト）七月（同一、八〇〇/ト）と相次いで値上がりとなり、基金の発動も第一四半期（四月～六月）四、二〇〇円/ト、第二四半期（七月～九月）四、八〇〇円

ノトと交付されました。現在でも、中国鉄鋼類の活発な流通により海上運賃が急騰しておりますし、イラク問題の長期化・原油高・世界的な異常気象等、今後さまざまな問題を抱えております。本年度も（十二月現在）生産者積立金の三倍以上の交付がなされ、価格の値下がりなどで交付がない場合には積立金として留保され他に流用されることはありません。このようなメリットのある制度ですので、今後も安定した酪農経営を継続されるうえで、安定基金への加入は必要不可欠です。平成十七年度は基本契約の年度でもあり、全戸・全量の加入契約をお願い致します。基金加入の契約申込を経済課職員が伺いますのでご理解の上、契約していただくようよろしくお願い致します。

12月ホクレン初妊牛市場成績

〔単位：頭、千円（税込）〕

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	~350	351~400	401~450	451~500	501~550	551以上
釧路	12月8日	344	451	19	47	92	113	68	5
根室	12月9日	576	468	3	29	165	252	114	13
豊富	12月10日	571	484	6	22	96	247	168	32
十勝	12月15・16日	744	514	17	34	69	181	227	216
北見	12月17日	490	484	13	28	92	156	146	55
合計		2,725	485	58	160	514	949	723	321
前月		3,318	478	64	201	672	1,384	736	261
前年同月		2,507	493	28	123	438	818	631	469

家畜市場成績

平成16年12月

〔単位：円（税込）〕

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 十五日	ホルス雄	133	-	63,000	2,100	29,863
	F1雄	76	-	185,850	52,500	132,355
	F1雌	82	-	96,600	14,700	74,576
館林 十七日	ホルス雄	12	70	81,000	31,000	50,417
	F1雄	8	66	142,000	98,000	120,625
	F1雌	18	70	112,000	68,000	92,889



理事会だより

十二月度理事会

報告事項

- (一) 資金貸付について
- (二) 十二月份生産者支払乳価について

- (三) 専門委員会報告について
- 協議事項

- (一) 十一月度事業実績について
- (二) JA中央会総合診断提案に対する計画書について
- (三) 情報システム機器購入について
- (四) 機構改革について

お知らせ

とちぎファームフェスタ2005
5マスコットキャラクター愛称&
大会テーマ曲歌詞募集
応募期間 平成十七年一月三十一日(当日必着)
詳しくはホームページをご覧ください。
http://farmfesta.com/

ハーフ・タイム



清々しい新年を迎えた。家内安全・無病息災・今年こそ幸多い年であるように」とまずは初参り。届いた賀状をめぐり、懐かしい友の近況を確かめ安堵する元日の朝。今年の干支は酉。とりのように大きく羽ばたき飛躍の年であるように祈りたい。

* * *

過ぎし年の世相を二字で綴つてみたら低迷・犯罪・猛暑・五輪・災害の文字となった。同じく、ユニークに表した短语が発表された。「チヨイ気持ちいい」、「気合だー」アテネ五輪で何度も聞いたが飽きない。世界の女性を魅了した「冬ソナ」のさわやか流行語。

また、創作四字熟語では、「後寝

今年も新春スポーツが、茶の間を賑わしてくる。八十回の歴史と記録を刻んだ箱根駅伝、母校と郷土の声援を一本のタスキに込め、孤独と闘いながらひたすらゴールを目指し力走する姿は、実に頼もしく興奮と感動に酔う。

紳士のスポーツ精神をバックボーン(真髓)とするラグビー。力と技のぶつかり合い、真っ直ぐ進まない楕円形ボールを追い走りまくるラグーマン。物ごとすべて順

* * *

五輪「アテネ五輪・深夜テレビ放映に熱中」、「台風常陸」(台風上陸史上最多の十ヶ)、「不湯表示」(不当表示・温泉の入浴剤混入)。更に「接者多熊」(切磋琢磨・全国的なクマ出没)、「様様様様」(ヨン様・冬のソナタの主人公)が続き、ト

風に進まないのが世の常、あたかも「イレギュラー人生」と教え示してくれる。

* * *

酪農統計数字をひとつ。農水省発表によると、十五年度の生乳と乳用牛産出額の都道府県ベスト3は、一位が北海道三、四一七億円、二位に栃木県三二二億円、三位は千葉県(二九〇億円)、本県は名実ともに酪農県に発展を成した。

また、市町村別の上位二十を見

ると、うち十九が北海道で占める中、道外ではただ一市、本県の黒磯市が第四位(八五億円)と健闘している。ちなみに一位別海町(四二九億円)、二位標茶町(一五八億円)、三位中標津町(一五六億円)、五位浜中町(八三億円)と続く。更なる躍進を祈念申し上げます。

(Y)

パソコン一年生

検索キーワードランキング

二〇〇四年の漢字、流行語などが発表されるなか、PC業界でもインターネットの検索キーワードランキングが発表されています。Yahooのランキングをご紹介します。すると、巨大掲示板サイト「2ちゃんねる」が三年連続総合一位となりました。以下「google」、「goo」は一昨年からのランキングで、「楽天」、「Amazon」などが新規ランキングを果たしました。インターネットで買い物をする方が増えてきた結果だと思われれます。また、著名人部門では「ORANGE RANGE」、「ペ・ヨンジュン」、「モーニング娘。」、「浜崎あゆみ」、「大塚愛」と続き、歌手がひしめく中俳優は韓国人のヨン様一人。施設・地域名ランキング一位は「東京ディズニーランド」で、以下「沖縄」、「京都」でした。

他の検索エンジンでも似たような結果でした。一つの検索エンジンから別な検索エンジンを探すとが上位に食込む結果が私には意外でした。どうでもいいことです。が、先月我が家では「ドラクエ」が「おかず」がランキング。